

## 国際協力三原則

世には様々な三原則がありますが、これは故敷田稔氏（ACPF 元理事長）から伝承されたものです。本号の発行が敷田氏の命日（9月12日）にちなみ、敬意を表して紹介します。

曰く、「汗出せ、知恵出せ、お金出せ」

国際協力に携わる者の心構えを端的に表したものです。

一人で「全部出せ」という意味に非ず。各人が出来る事を一つでもやるという意味です。各自の出来る事を結集すれば、見事な成果を得られます。「お金出せ」は、どぎつく聞こえるでしょうが、国際協力には費用が必要になり、現実を見据えているわけで、時間も知恵もないがお金で貢献できるならば、それも立派な国際貢献という意味があります。

さらに、7世紀から伝わる「以和為貴」の「和」は、足し算の和、つまり本来「力を合わせる」の意味です。まさに、「国際協力三原則」もこれに相通じるものがあるのです。

実際に国際協力に携わってみると、その根底に「心」がないと、単なる偽善又は傲慢に感じられます。そこで、「心出せ」が最も重要と感じます。その「心」は自然と表情に出ますので、「笑顔出せ」も重要で、楽しんでやらなければ笑顔は出ません。もちろん敷田氏は心も笑顔も一級品でした。したがって「国際協力三原則」は、実は「国際協力五原則」であると感じております。（山下輝年記）



笑顔の敷田稔氏

2006年11月20日

ACPF 世界大会於ジャカルタ

### 編集後記

## 専門家

新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、いまなお残る論点に、マスク着用の是非をめぐる論点がある。東京では、先日、新型コロナウイルスはただの風邪でマスク着用は不要だと主張するグループが集団でマスクを着けず山手線に乗り込もうとしたが、阻止された。米国ジョージア州では、マスク着用を義務化したアトランタ市長を、知事がこれを違法として提訴したと報道された。同市長いわく、「科学者はマスク着用が正しいと言っている」。しかし、感染防止にマスクは有効ならずとする医学専門家もいた。専門家の指導に従って少しでも身の安全を護りたい国民からするとわかりにくい話である。しかも、「それぞれの主題についてもっともすぐれた専門家を選ばなければならない」（W.リップマン「世論」（下）掛川トミ子訳岩波文庫）のはその通りだが、「専門家を選ぶことは…きわめてむずかしく、…専門家同士でさえ、自分たちのうち誰がもっともすぐれた専門家なのか、いささかの確信もない」（同上）などと言われると国民はお手上げだ。いくつもある報道番組は連日専門家と称する人々を代わる代わるスタジオに呼んできて、検査陽性者数増加の評価や感染拡大収束の見通しなどを論じさせるが、それらの言うところは似ているものの、肝心のところでは様々だし、何より概して歯切れが悪い。これでは国民の不安は解消せず、安心がほしい国民はインターネットを検索するなどさらに情報を求め続けることとなる。専門家の見解が区々になるのは専門的知見の相違によるものだとしても、歯切れがどうにも悪くなる根底には、いずれの専門家も当該テーマに真に残された問題点や未解決の論点があることを知っているから軽々なことは言えないという専門家ならではの事情もあるのではないか。このことは専攻分野が違ってても専門家が多いこのメルマガの読者にはご理解いただけるだろう。と言ってみてもなお不安は解消しないのだが。

いずれにしてもこの感染拡大に伴う混乱が収まるのはいつだろうか。早期終息を祈るや切なるものがある。

（安田博延記）